※ 日刊建設工業新聞社 掲載許諾済み

技術者の研さん後押し

舗装コンサルタント協会

若手の資質向上なども

舗装技術者の資質の向上や舗装技術の発展を目的として2005年に発足した舗装コンサルタント協会。5月27日の総会で代表理事に就任した安藤政浩氏（グリーン・コンサルタント社長）は「原点に立ち返って活動したい」と協会運営の抱負を語る。会員の舗装コンサル各社の技術者が研さんに励める場を積極的に提供し、インフラの管理者からの研修の依頼にも応じていくという。

協会は道路業界の一員として、舗装のコンサルタント会社の立場から、技術者の育成や技術力の向上、社会資本整備に貢献しようと活動を始めた。日本道路建設業協会が舗装診断士の資格運用を始めるまでは、舗装の調査などを巡る高い技術力があると認める「舗装調査診断士」資格を運用していた。

安藤代表理事

現在は舗装のコンサルタント業務などを行っている6社で構成する。舗装コンサルタントの資質と技術力の向上、啓発・広報、調査・研究、経営基盤強化の企画・調査などに力を入れている。道路管理者の依頼を受け、風土に適した維持・更新の在り方などを学んでもらう研修も行っている。8月には石川県内で3年ぶりの研修を予定している。

膨大な道路ストックが更新期を迎え、維持修繕の需要が高まっている。厚さ数ミリ、数センチの舗装であっても条件に見合った最適な対処方法を提案したり、事業を効果的にマネジメントしたりなど、高度な技術力が求められる。安藤代表理事は「優れた舗装技術の普及・展開と、若い技術者の資質の向上を主眼にしたい」と語る。舗装の必要性や重要性への理解を促そうと、学生向けの出前講座の実施なども視野に入れている。

2年ぶりに開いた技術講習会

5月27日に東京都内で開いた総会の後、「舗装の調査診断と技術力向上に関する技術講習会」を開いた。コロナ禍の影響で開催は2年ぶり。技術者ら20人が聴講し、公共性の高い機関の技術者らもウェブで視聴した。会員会社が、質の高い舗装を長く使うための路面性状調査や表層を削る修繕工法、FWD（舗装構造評価装置）のポイントを解説したほか、脱炭素の取り組みとして注目される中温化技術の事例も発表した。

続いてNIPPOの中村博康北海道支店試験所長と、日本道路協会の三浦真紀舗装委員長が講演した。中村氏は舗装の診断力の向上について、さまざまな知識や経験を共有するナレッジマネジメントの駆使、情報の連携、技術者個人の資質をポイントに挙げた。三浦氏は舗装の長期性能などを話題にし、ライフ・サイクル・コストや長期の性能を意識できる技術者の重要性を強調した。

講習会は感染症対策のため会場の聴講者を制限した。流行を見ながら、開催の頻度やメニューを検討していくことにしている。「舗装の技術としっかり向き合う組織でありたい」（安藤代表理事）。会員の技術者に寄り添い、舗装と舗装技術のPRにも取り組む方針だ。